



令和5年7月10日  
水管理・国土保全局  
気象

### 福岡県・大分県では引き続き土砂災害・河川の増水や氾濫に警戒

福岡県・大分県では、まもなく、大雨特別警報は警報に切り替えとなる見込みです。

これまでの大雨により、地盤の緩んでいるところがありますので、土砂災害、河川の増水や氾濫について引き続き警戒してください。

また、福岡県を流れる一級水系筑後川など、これまでの大雨で増水しており、高い水位が継続しています。

土砂災害及び河川の増水や氾濫に関する留意事項を別添の通りお知らせいたします。

#### 問い合わせ先

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川保全企画室

企画専門官 菅 (内線 35-462)

代表 03-5253-8111 直通 03-5253-8448

気象庁大気海洋部気象リスク対策課

防災気象官 西 (内線 4203)

代表 03-6758-3900 F A X 03-3434-9051

# 福岡県、大分県では河川が増水 嚴重に警戒

- 福岡県、大分県では  
大雨特別警報を大雨警報に切り替えへ
- これまでの大雨で筑後川水系筑後川で  
高い水位が継続
- 避難情報に従い、身の安全を確保！

- 雨が弱まり、福岡県、大分県を流れる河川の水位は、低下傾向にあるものの、これまで流域に降った雨の影響や、次の洪水に備えてダムに貯留した水を長時間かけて放流する影響により、水位の高い状態が続く場合があります。
- これまでの降雨により、流域が湿潤状態であることや、ダムに多くの水が貯まっている状態のため、今後、再度大雨が発生すると、河川の氾濫の危険性が高まります。また、高い水位が継続しているため、堤防や護岸等の損傷を十分に確認できていません。そのため、今後の大雨には特にご注意ください。
- 福岡県、大分県以外でも、今後の降雨状況にも注意し、引き続き、河川の氾濫に警戒してください。
- 各地の河川事務所や気象台などが発表する情報、気象庁HP等の「危険度分布」や「川の防災情報」などにより、最新の情報を確認してください。

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。

(気象庁ウェブサイト：<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)








河川の水位、ダムの放流量などの情報は「川の防災情報」をご覧ください。

(国土交通省 川の防災情報ウェブサイト：<https://www.river.go.jp/portal>)


# 河川の状況

7月10日  
15時30時点

## 氾濫が発生している国管理河川(警戒レベル5相当)

- ・ 筑後川水系 こいしわらがわ 小石原川 、 こせがわ 巨瀬川  (福岡県)
- ・ 遠賀川水系 じょうばるがわ 城原川  (佐賀県)、 かげつがわ 花月川  (大分県)
- ・ 松浦川水系 ひこさんがわ 彦山川  (福岡県)
- ・ 山国川水系 とくすえがわ 徳須恵川  (佐賀県)
- ・ 山国川水系 やまくにがわ 山国川  (大分県)

## 氾濫危険水位を超過している国管理河川(警戒レベル4相当)

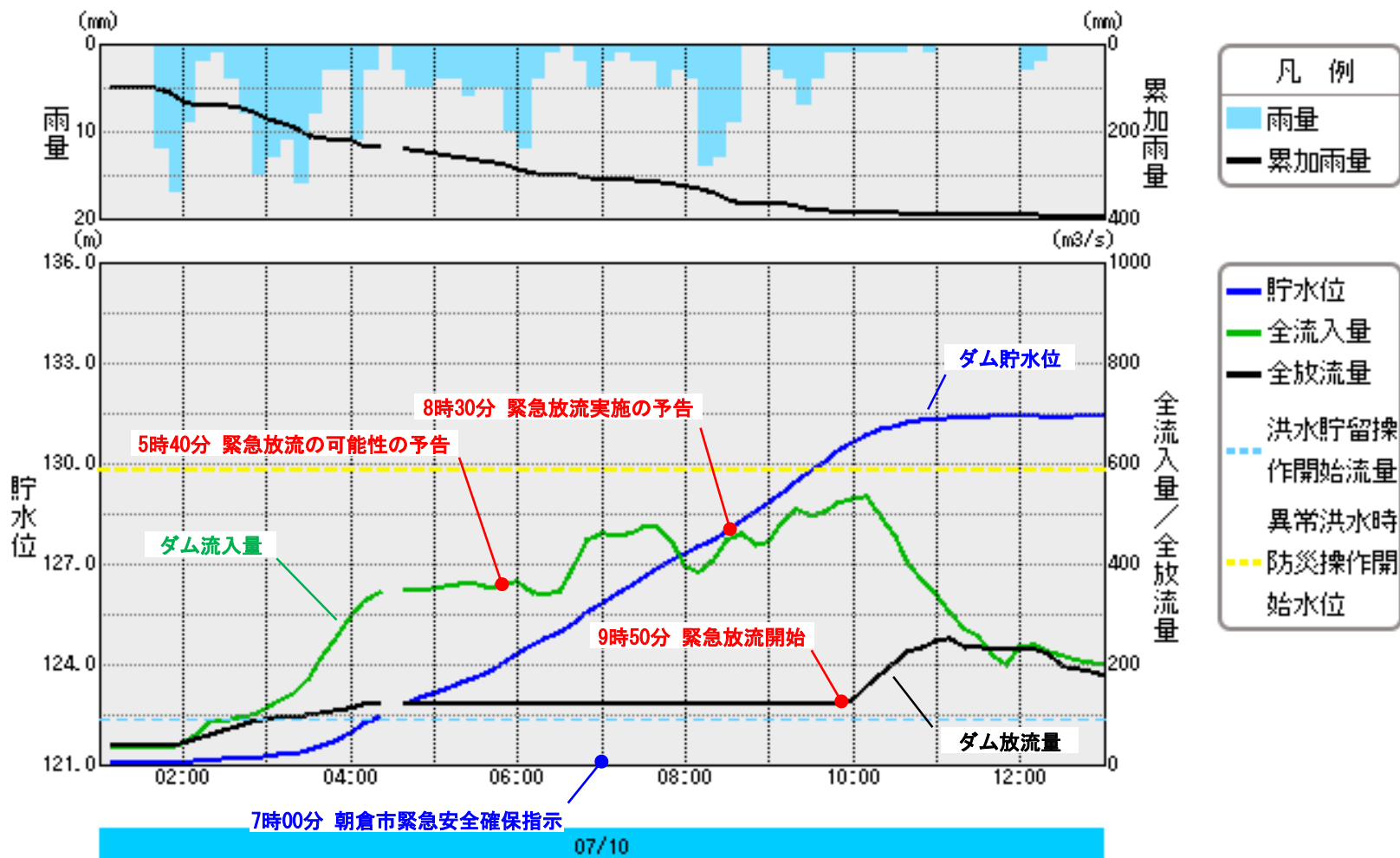
- ・ 筑後川水系 ちくごがわ 筑後川  (福岡県)

その他にも、今後の降雨の状況により、水位が上昇する場合がありますため、警戒が必要です。



# 寺内ダム 筑後川水系佐田川(福岡県朝倉市荷原)

## ■ 10日 9:50～ 緊急放流(異常洪水時防災操作) 実施中



てらうち ちくごがわ すいけい さだがわ ふくおかけん あさくらし いないぼる  
 寺内ダム 筑後川水系佐田川(福岡県朝倉市荷原)

7月10日 9:50時点

緊急放流 開始時

寺内  
 10分雨量： 1.0mm  
 降り始めからの雨量： 384.0mm

現在の貯水位  
 130.37m

緊急放流(異常洪水時防災操作)判断水位：129.80m

全流入量：518.97m<sup>3</sup>/s

洪水時最高水位：131.50m

全放流量：119.83m<sup>3</sup>/s

平常時最高貯水位：121.50m

貯水率(利水容量)：100.0%

最低水位：93.00m

※この図は模式図であり、実際のダムの形状とは異なります

てらうち ちくごがわ すいけい さだがわ ふくおかけん あさくらし いないぼる  
**寺内ダム 筑後川水系佐田川(福岡県朝倉市荷原)**

7月10日 15:30時点

**緊急放流 実施中**

寺内  
 10分雨量： 0.0mm  
 降り始めからの雨量： 396.0mm

現在の貯水位  
**131.42m**

緊急放流(異常洪水時防災操作)判断水位：129.80m

全流入量：144.93m<sup>3</sup>/s

洪水時最高水位：131.50m

全放流量：131.58m<sup>3</sup>/s

平常時最高貯水位：121.50m

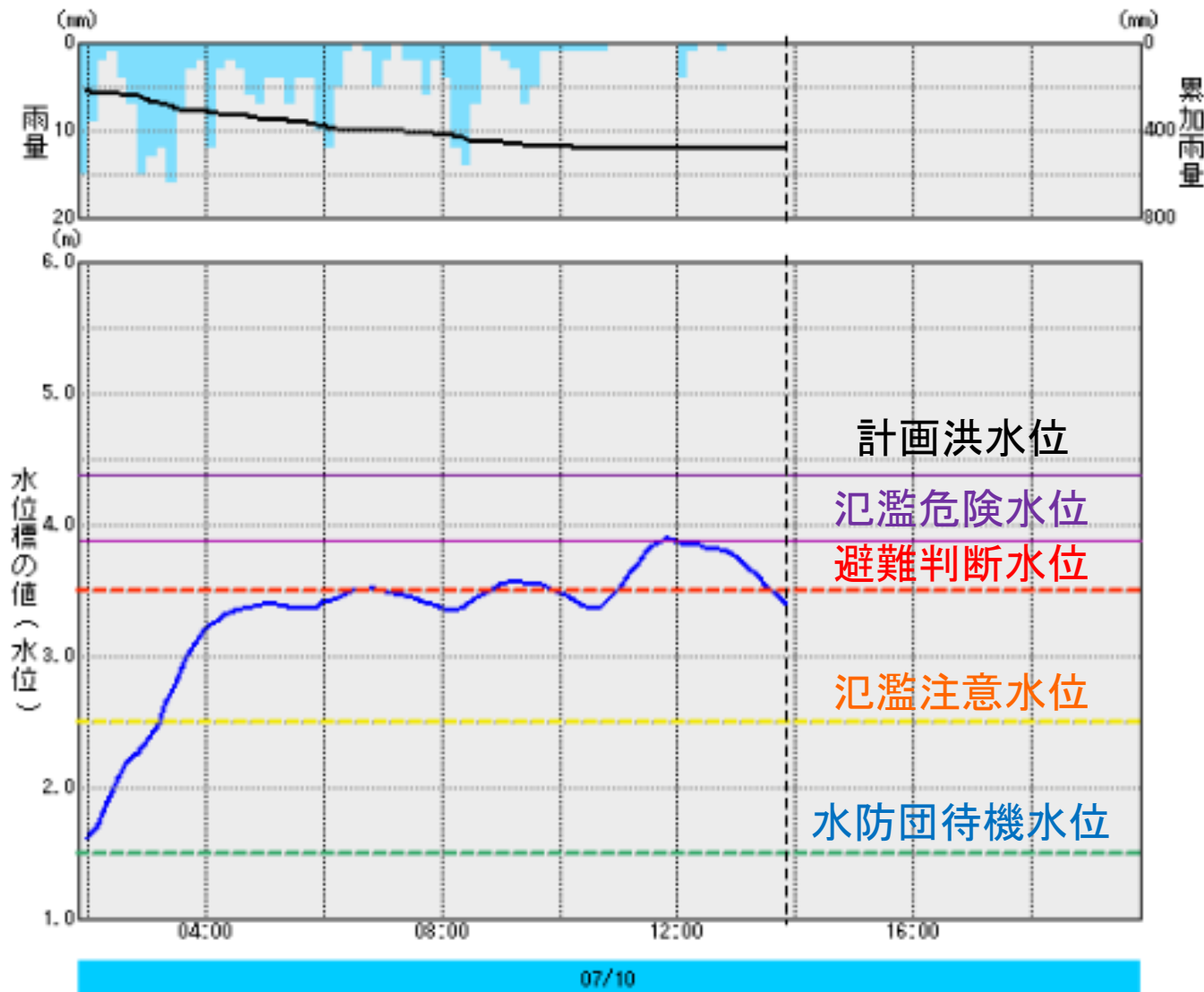
貯水率(利水容量)：100.0%

最低水位：93.00m

※この図は模式図であり、実際のダムの形状とは異なります

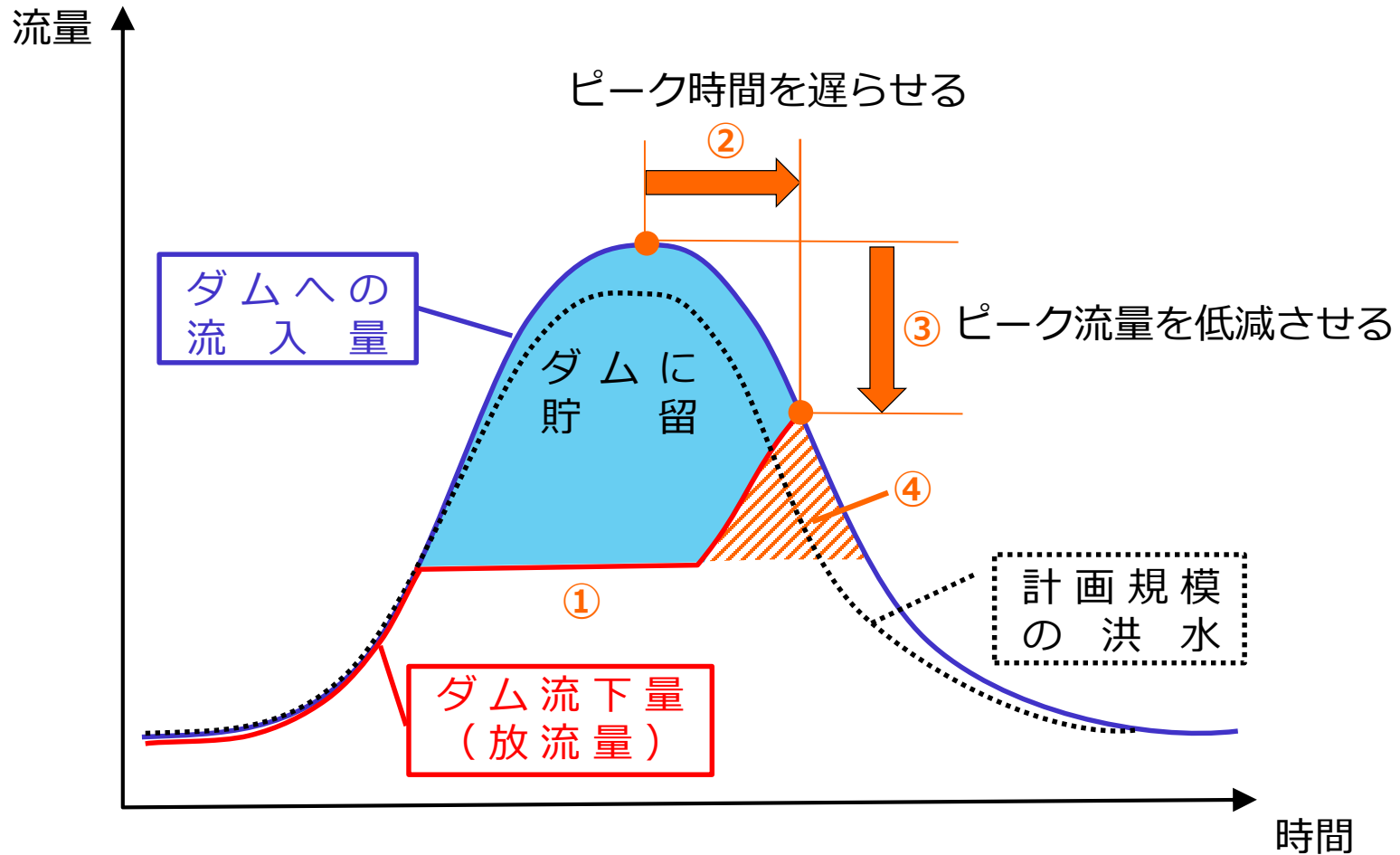


かなまるはし 福岡県朝倉市金丸  
 金丸橋水位観測所 (福岡県朝倉市金丸)



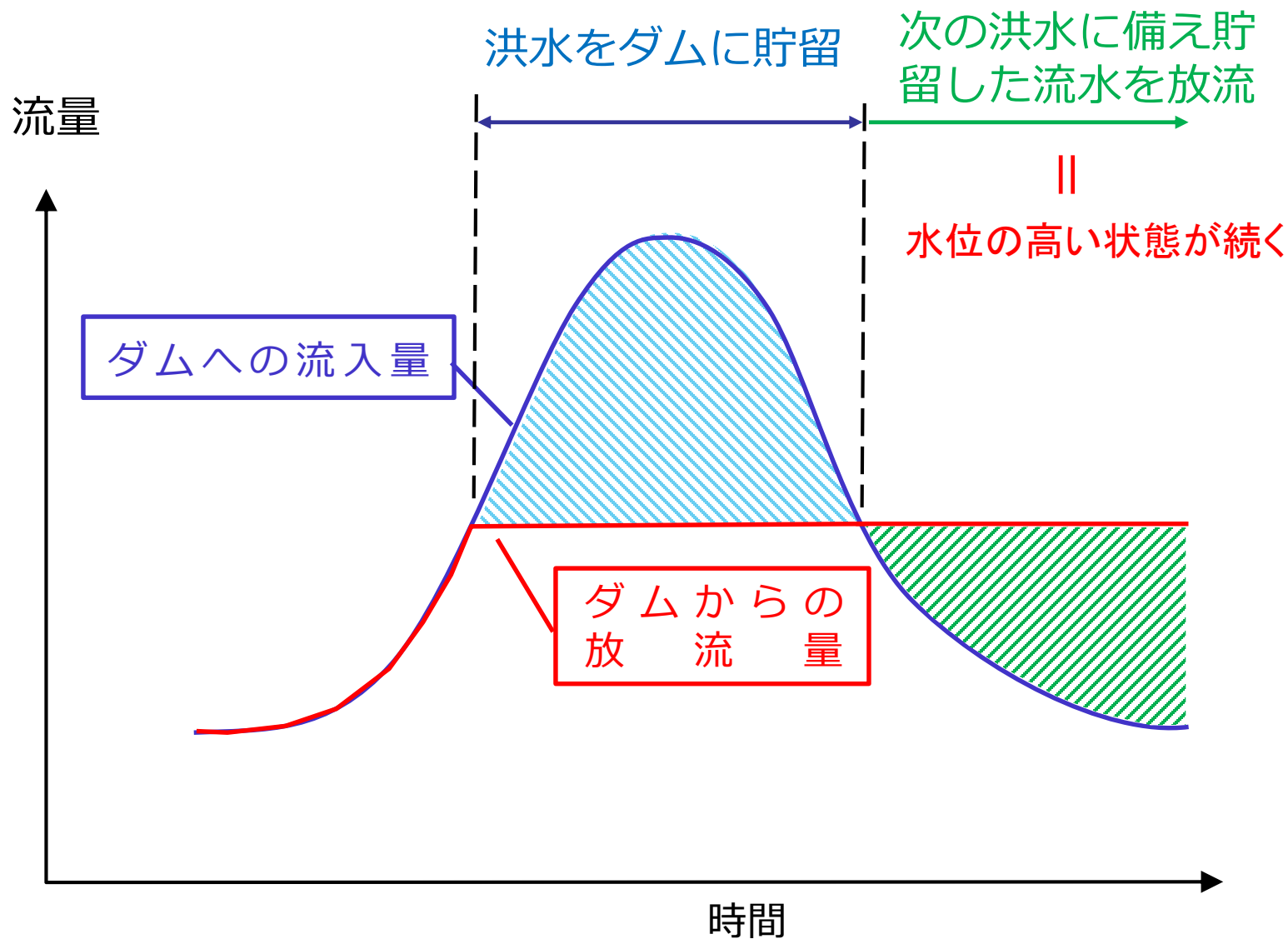
凡例・基準水位		現在値
計画高	4.38m	
氾濫危険	3.87m	
避難判断	3.50m	3.40
氾濫注意	2.50m	
水防団待機	1.50m	

# ダムの防災操作(異常洪水時防災操作)



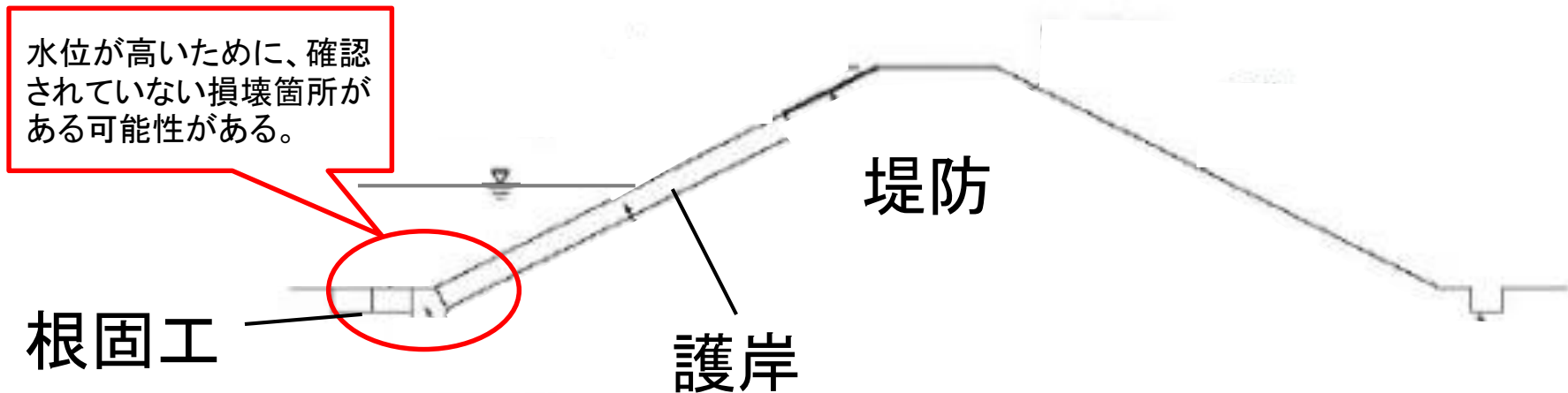
- ① 安全な流量が流れているうちに避難が可能
- ② ピーク時刻を遅らせる → 避難時間を確保
- ③ ピーク流量を低減させる → 下流河川の被害を軽減
- ④ 仮に氾濫した場合でも、氾濫ボリュームを減少させて、下流河川の被害を軽減

# ダム防災操作のイメージ (洪水調節)



# 河川の状況

- 河川の水位が高いことにより、まだ確認されていない損傷箇所がある可能性があります。



# 福岡県、大分県では 大雨特別警報は警報に切り替えへ



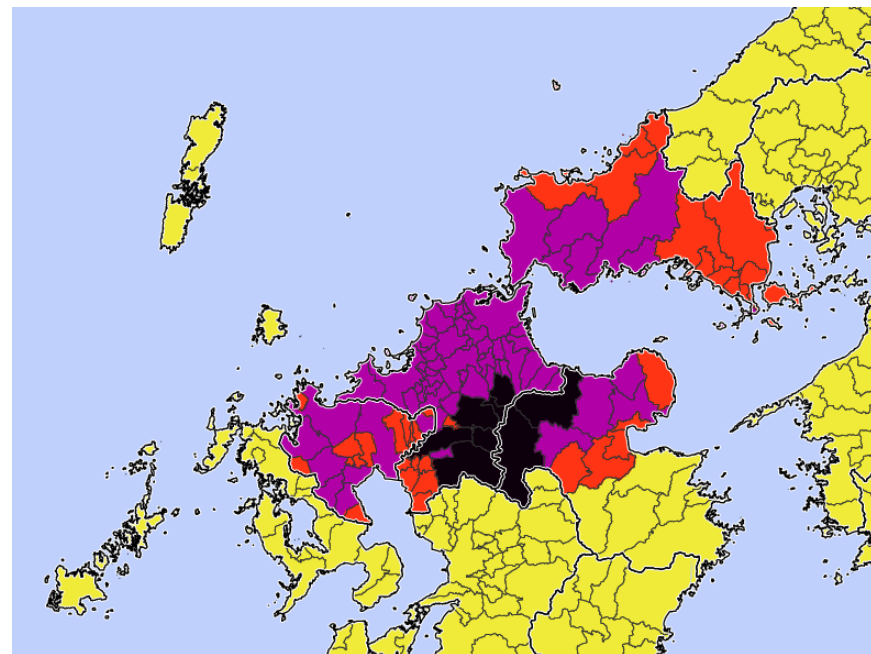
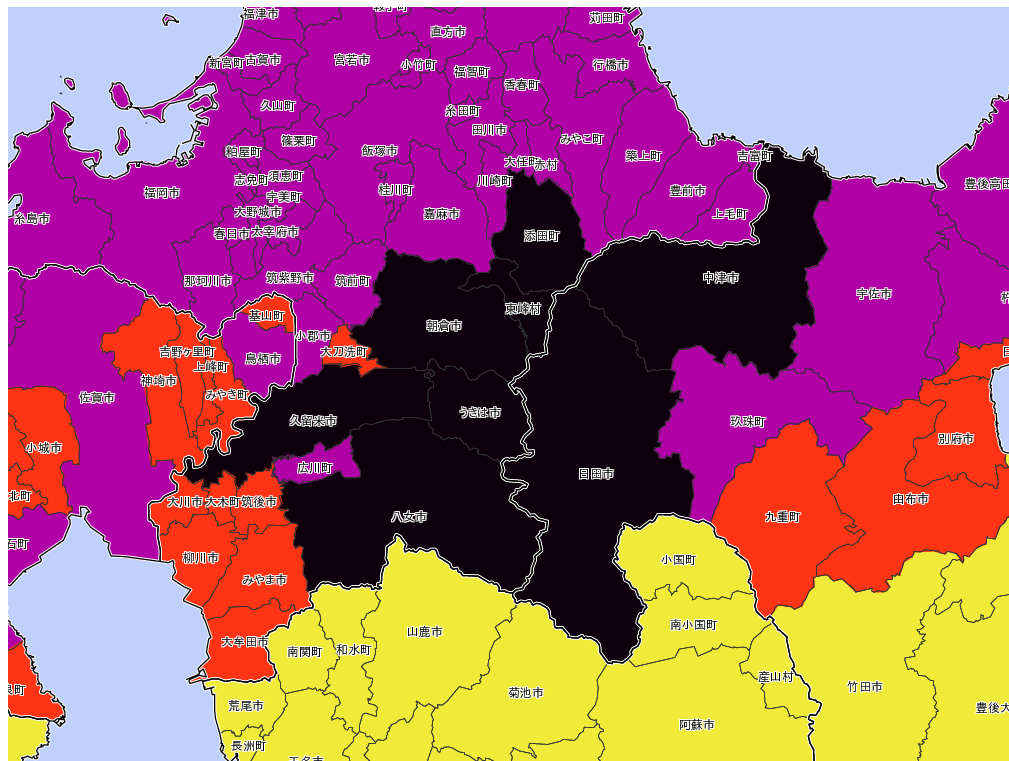
- 福岡県、大分県では、発表している大雨特別警報は警報に切り替えとなる見込みです。
- 大雨特別警報が警報に切り替わった後も油断することなく、地元市町村が発令している避難指示（警戒レベル4）等に従って身の安全を確保してください。
- これまでの大雨により地盤の緩んでいるところがあります。土砂災害についても引き続き警戒してください。

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
（気象庁HP：<https://www.jma.go.jp/jma/>）

# 特別警報・警報の発表状況



2023年07月10日15時55分現在



- 大雨特別警報
  - 特別警報(大雨以外)・高潮警報  
土砂災害警戒情報
  - 警報(高潮以外)・高潮注意報(\*1)
  - 注意報(高潮以外)・高潮注意報(\*2)
  - 発表なし
- \*1 高潮警報に切り替える可能性が高い  
\*2 上記以外の高潮注意報

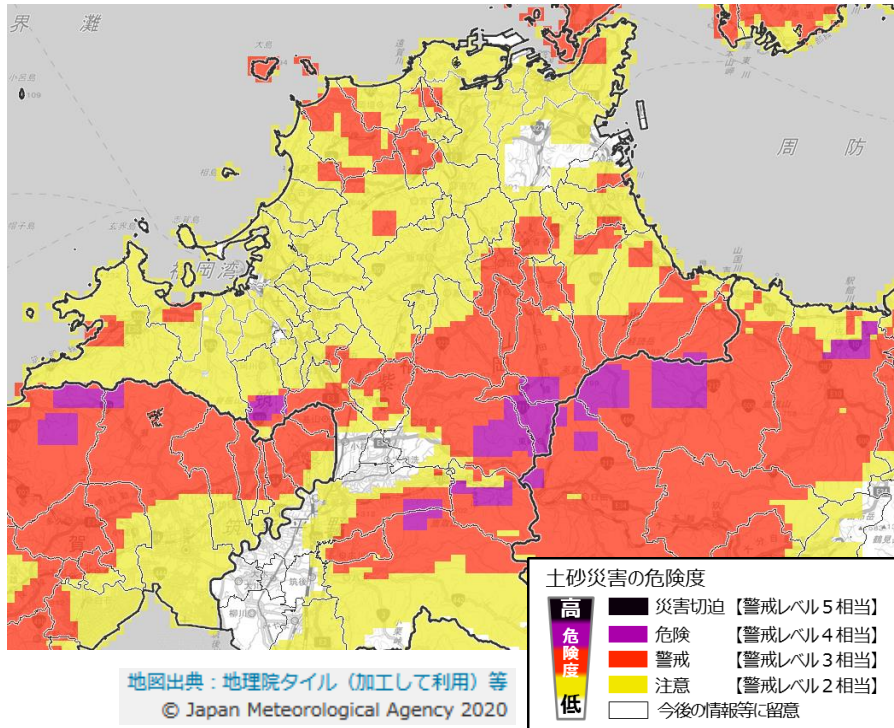
**特別警報・警報が発表されている市町村内のどこで災害発生の危険度が高まっているかを「キキクル（危険度分布）」で確認してください。**

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(気象警報・注意報：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>)

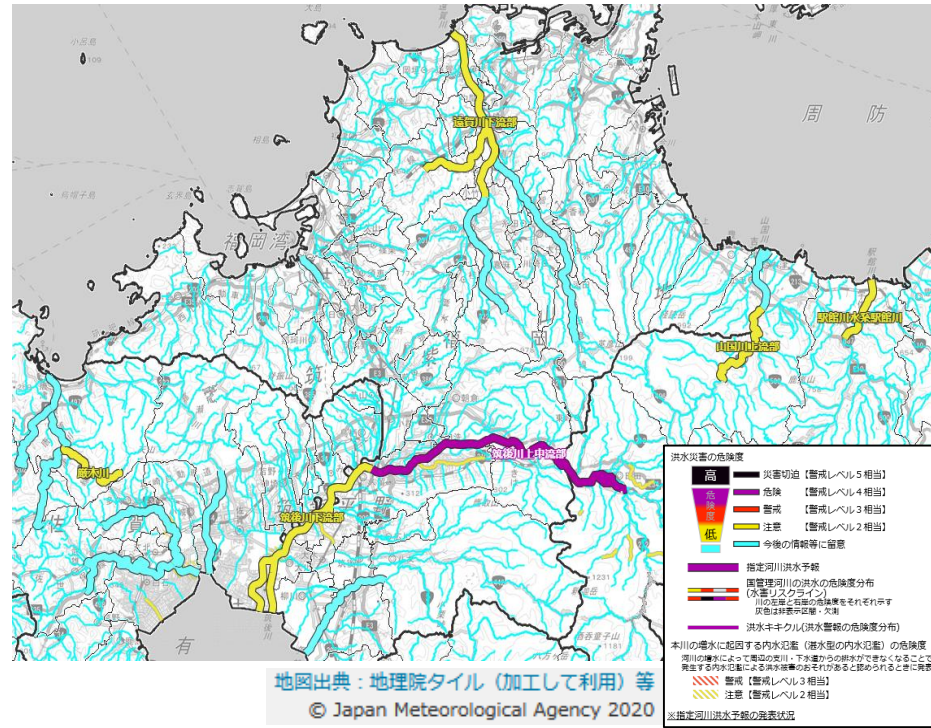
# キキクル(危険度分布)



土砂災害 2023年07月10日16時00分



洪水害 2023年07月10日16時00分



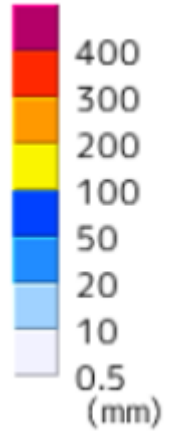
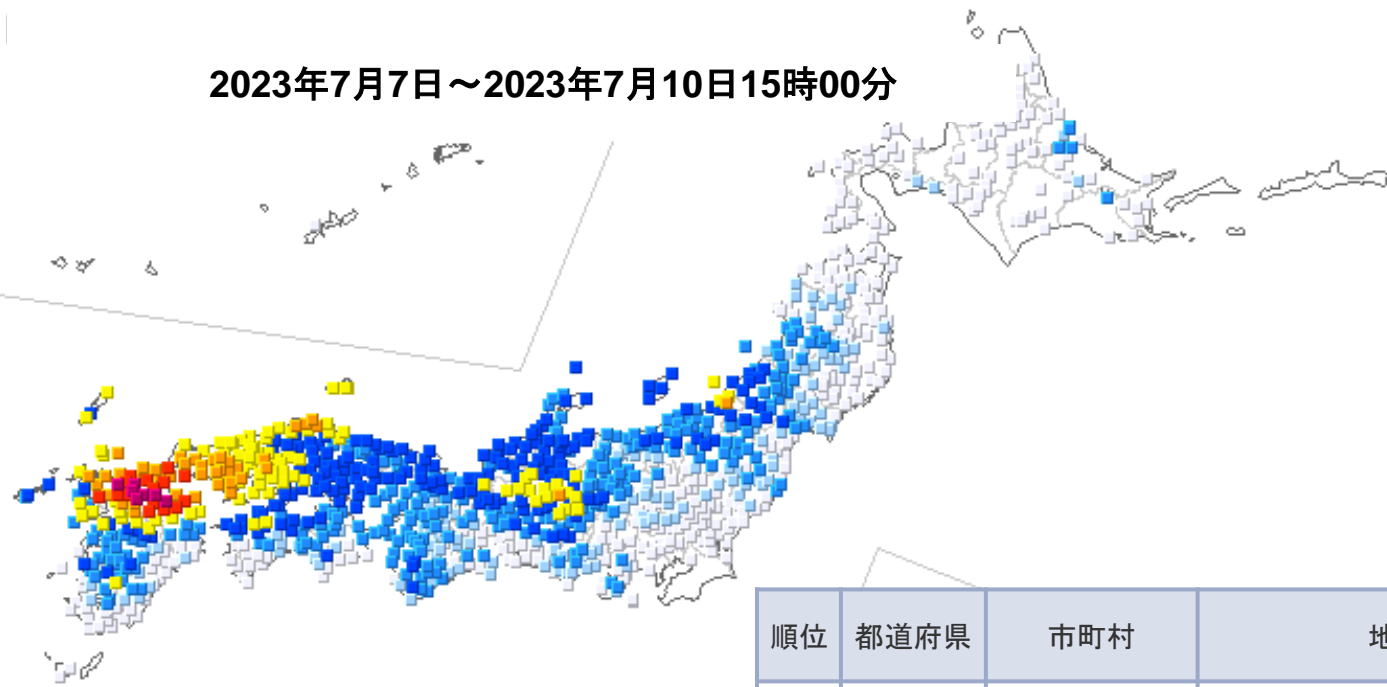
- 警戒レベル5に相当する「災害切迫」(黒)となっている場所では、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況となっています。土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な場所からまだ避難できていない方は、いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等することが重要です。
- 警戒レベル4に相当する「危険」(紫)となっている場所では、重大な災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。危険な場所にいる方は速やかに安全な場所に避難することが重要です。

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(キキクル(危険度分布)：<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood>)

# 降水量の期間合計値



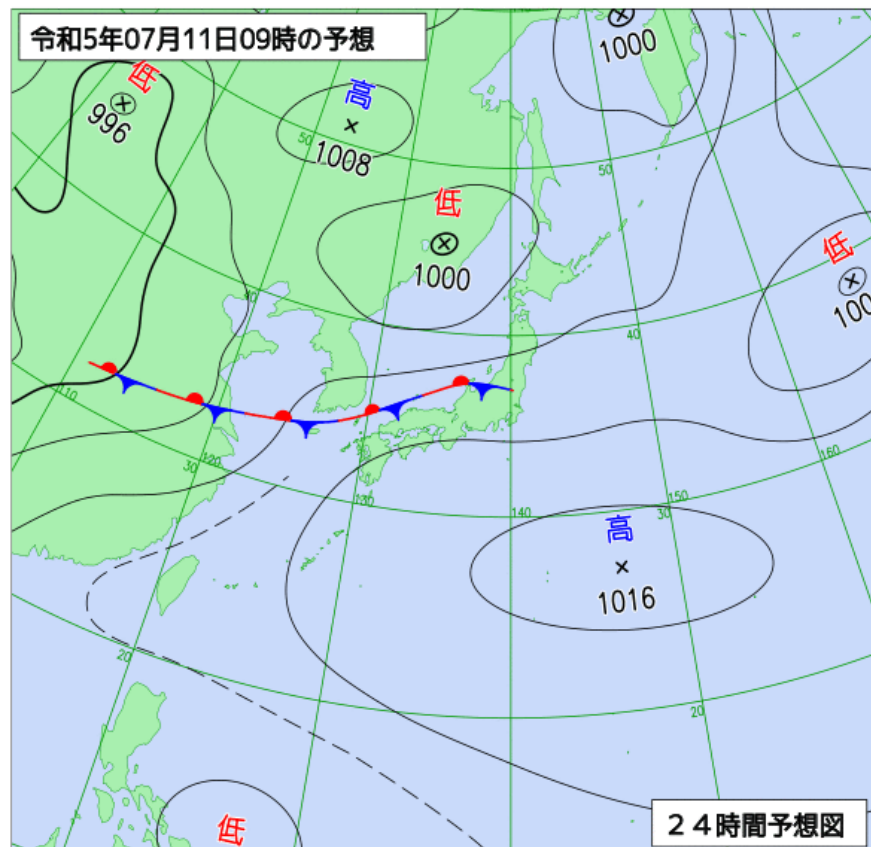
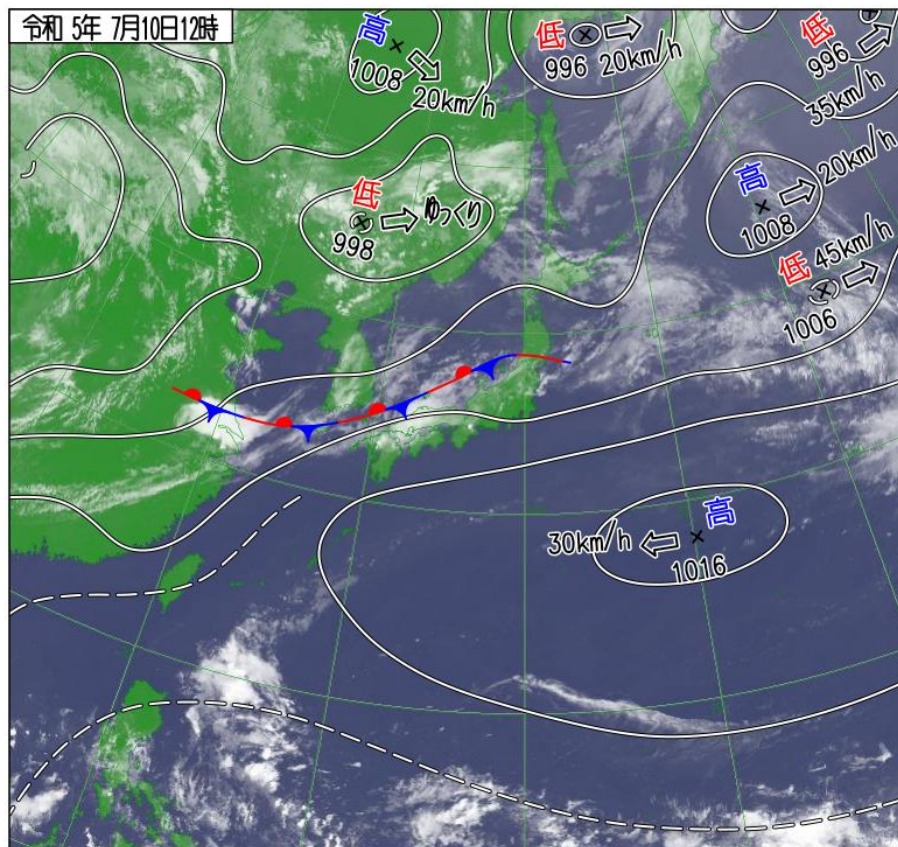
2023年7月7日～2023年7月10日15時00分



順位	都道府県	市町村	地点	期間合計値
				mm
1	福岡県	田川郡添田町	英彦山(ヒコサン)	603.5 ]
2	福岡県	久留米市	耳納山(ミノウサン)	567.0 ]
3	佐賀県	鳥栖市	鳥栖(トス)	490.0 ]
4	福岡県	朝倉市	朝倉(アサクラ)	465.0 ]
5	大分県	中津市	耶馬溪(ヤバケイ)	429.5 ]
6	佐賀県	佐賀市	北山(ホクザン)	423.0 ]
7	福岡県	太宰府市	太宰府(ダザイフ)	419.0 ]
8	大分県	日田市	椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	398.5 ]
9	福岡県	田川郡添田町	添田(ソエダ)	377.0 ]
10	福岡県	福岡市早良区	早良脇山(サワラワキヤマ)	376.5 ]



# 天気図



地上天気図  
(7月10日12時)

予想天気図  
(7月11日9時予想)

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(天気図：[https://www.jma.go.jp/bosai/weather\\_map/](https://www.jma.go.jp/bosai/weather_map/))

# 大雨の警報級となる可能性のある期間

日時	日	10日		11日	12日	13日	14日	15日
	時	12~18	18~06	06~24				
東北地方	大雨	■	■	■	■	■		
関東甲信地方	大雨	■	■					
北陸地方	大雨	■	■	■	■			
東海地方	大雨	■	■					
中国地方	大雨	■	■					
四国地方	大雨	■	■					
九州北部地方	大雨	■	■	■	■			

■ 可能性がある ■ 可能性が高い

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
 (気象警報・注意報：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=warning>)

# 今後の雨の予想

地域	11日18時までの 24時間雨量(予想)	12日18時までの 24時間雨量(予想)
東北地方	80	100~150
関東甲信地方	100	50~100
北陸地方	80	50~100
東海地方	80	50~100
中国地方	60	50~100
四国地方	60	およそ50
九州北部地方	60	およそ50

単位:ミリ

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報をご利用ください。  
(気象情報: <https://www.ima.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=information>)

※アイコンをクリックすると気象庁HPが表示されます。



@JMA\_bousai  
気象庁公式の防災情報アカウントを開設しました。台風接近や大雨のおそれがある場合等に、現況や今後の見通し、防災上の留意点、緊急会見の内容等を解説します。



気象庁の公式チャンネルです。緊急記者会見の様などをお届けします。最新の防災気象情報については、気象庁ホームページやツイッターをご覧ください。



- 避難行動判定フロー・避難情報のポイント（内閣府（防災担当））  
[http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3\\_hinanjouhou\\_guideline/pdf/point.pdf](http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/point.pdf)
- 新型コロナウイルス感染症が収束しない中での避難について（内閣府（防災担当）・消防庁）  
<http://www.bousai.go.jp/pdf/colonapoint.pdf>

## 大雨が降ると...

一瞬にして多くの人命や財産を奪ってしまう  
**土砂災害が発生!**

崖崩れや土石流の発生を確認して  
から避難することはできない。



広島市の土石流による被害の様子  
(平成26年8月20日気象庁撮影)

平成26年8月豪雨では、広島県広島市で土石流が発生し、人的被害をもたらした。

中小河川は**水位が急激に上昇!**

中小河川は、大雨が降ると短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい。



福岡県朝倉市を流れる北川の様子  
(出典：国土地理院ホームページ)

平成29年7月九州北部豪雨では、福岡県朝倉市の赤谷川、北川等で水位が短時間で上昇して氾濫が発生し、人的被害をもたらした。

大河川は**広範囲・長時間浸水!**

大河川で水が堤防を越えたり堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水するなど大きな被害となる。



茨城県常総市の浸水被害  
(資料：国土交通省関東地方整備局)

平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川の氾濫で茨城県常総市の約3分の1の面積が浸水し、浸水が概ね解消するまでに10日を要した。

ハザードマップを参考に、  
キキクルや指定河川洪水予報を活用し、

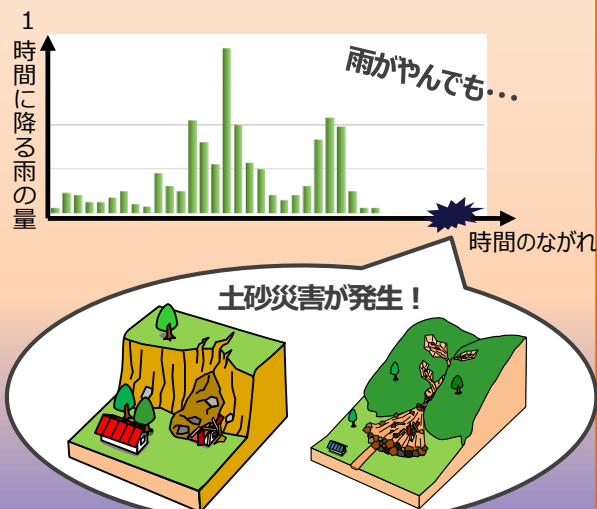
**安全に避難できる早い段階で避難開始を判断**することが重要!



## 大雨がやんでも...

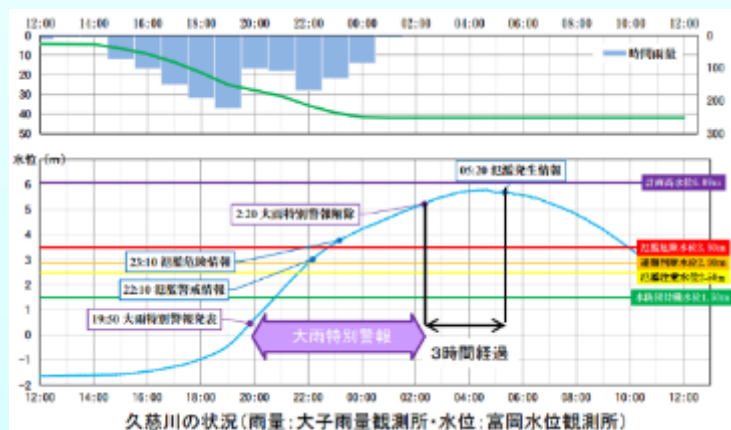
### 土砂災害の危険が継続!

雨が弱まったりやんだりしても、それまでに降った大雨により地盤が緩んだ状態が続き、土砂災害が発生することがある。



### 油断禁物! 大河川は時間差で増水

大河川は上流の雨により下流で遅れて増水する。このため、大雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがある。



(出展: 「第1回気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」資料に加筆)

令和元年東日本台風では、吉田川、阿武隈川、石田川、蛇尾川、都幾川、越辺川、久慈川、千曲川の7河川で大雨特別警報解除後に氾濫発生情報を発表している。

避難先から家に帰る前に

**自治体の避難情報や気象情報を確認することが大切!**

危険な状況ではなくなったことを確認してから家に帰りましょう。



## 位置づけ・役割

### <位置づけ>

大雨特別警報は、避難指示に相当する気象状況の次元をはるかに超えるような現象をターゲットに発表するもの。発表時には何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い。

### <役割>

- (1) 土砂災害警戒区域や浸水想定区域など、災害の危険性が認められている場所からまだ避難できていない住民が直ちに命を守る行動を徹底
- (2) 災害が起きないと思われているような場所においても災害の危険度が高まる異常事態であることの呼びかけ
- (3) 速やかに対策を講じないと極めて甚大な被害が生じかねないとの危機感を防災関係者や住民等と共有することによる、被害拡大の防止や広域の防災支援活動の強化

# (参考) 5段階の警戒レベルと防災気象情報



気象庁等の情報 キキクル			市町村の対応	住民がとるべき行動	警戒レベル
大雨 特別警報	災害切迫	氾濫 発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5
< 警戒レベル4までに必ず避難！ >					
土砂災害 警戒情報	高潮 警報	高潮 特別 警報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
※ 大雨警報 洪水警報	高潮警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	危険	高齡者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齡者等は避難 ・高齡者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
大雨警報に 切り替える 可能性が高い 注意報	高潮 注意報	警戒	第2次防災体制 (高齡者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
大雨注意報 洪水注意報	注意	注意	第1次防災体制 (連絡要員を配置)	災害への心構えを高める	1
早期注意情報 (警報級の可能性)			<ul style="list-style-type: none"> <li>心構えを一段高める</li> <li>職員の連絡体制を確認</li> </ul>		

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齡者等避難)に相当します。

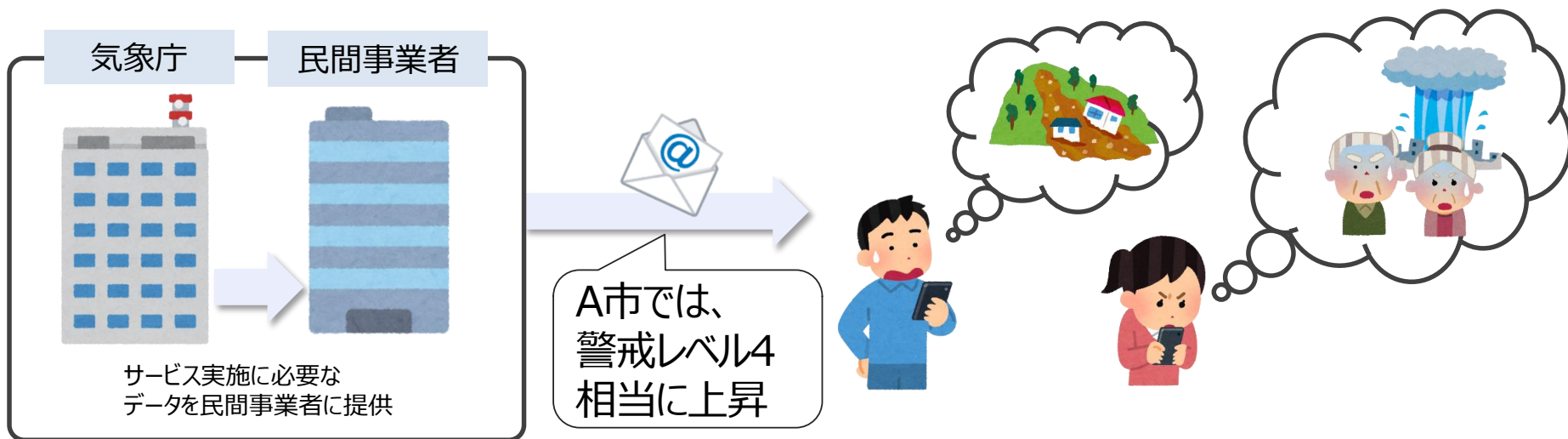
「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成



# (参考)「キキクル(危険度分布)」の通知サービスについて



- 土砂災害や洪水等からの自主的な避難の判断に役立ていただくために、危険度が高まったときにメールやスマホアプリでお知らせするプッシュ型の通知サービス※1を実施しています。
- この通知は市町村からの避難指示等よりも先に届く場合があります。このため、通知を受信したときには、市町村からの避難指示等を確認するとともに、避難指示等が発令されていなくても、市町村内のどこで危険度が高まっているかを「キキクル(危険度分布)」の地図や河川の水位情報等で確認することで、自主的な避難の判断※2・3に活用いただけます。



※1 住民の主体的な避難の判断を支援する取組の一環として、気象庁の協力のもとで、以下のリンク先の5つの事業者が実施するものです。  
([https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame\\_push.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame_push.html))。

※2 離れた場所に暮らしている家族に避難を呼びかけることにも活用いただくことができます。

※3 避難にあたっては、指定された避難場所への避難がかえって危険な場合には、少しでも崖や沢から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。